

平成24年度の「けんしん(健診・検診)」が始まっています。

特定健康診査

特定健康診査は、加入している健康保険によって申し込み先が異なります。

①行田市国民健康保険に加入している方

40～74歳で行田市国民健康保険に加入している方は、保険年金課から「受診券」が送付されています。同封の案内に従い、希望する実施医療機関へ直接申し込みください。

※受診期間は12月21日(金)までです。
※75歳になる方が誕生日以降に受診する場合は、保険年金課へ問い合わせください。

②行田市国民健康保険以外の健康保険に加入している方

加入している健康保険が実施していません。詳しくは、加入している健康保険の担当者へ問い合わせください。

③後期高齢者医療制度に加入している方

保険年金課から「受診券」が送付されています。同封の案内に従い、希望する実施医療機関へ直接申し込みください。
※受診期間は12月21日(金)までです。

④生活保護受給者

40歳以上の方は、ヤング健診を無料で受診することができます。保健センターへ申し込みください。

がん検診、肝炎ウイルス検診、歯周疾患検診

各種がん検診、肝炎ウイルス検診、歯周疾患検診は、加入している健康保険に関係なく受診できます。詳しくは、4月に配布した「保健センターのお知らせ」をご覧ください。

健康づくりのための教室

保健センターでは「体に効くウォーキング教室」「血液サラサラ教室」など、生活習慣病予防の基本となるポイントを学ぶことができる各種教室を実施しています。

あなた自身の健康のため、周りの人の笑顔のため、病気が自覚症状がなくても進行している危険性があり、あなたは健康を守りたい。あなた自身です。「病気とは無縁だから」「忙しいから」と言わず、「けんしん」を定期的に受け、継続的な健康管理を行うことが大切です。これからの未来、あなたが大切な人として、笑って過ごしたい。あなた自身、ほんのささいな体のSOSにも、どうも耳を傾けてあげてください。

5つのがん検診の種類と対象年齢を紹介します。

5月21日、こぜにちゃんとフラベえが上田埼玉県知事より「けんこう大使」に任命されました。



肺がん

(40歳から)

自己負担金200円

胸部のレントゲン撮影を行う。



胃がん

(40歳から)

自己負担金500円

バリウムを飲んで胃部のレントゲン撮影を行う。



大腸がん

(40歳から)

自己負担金500円

2日間便を取る。



乳がん

(40歳から)

自己負担金800円

視触診とマンモグラフィ(乳房のレントゲン撮影)を行う。



子宮(頸)がん

(20歳から)

自己負担金800円

内診と顕微鏡による細胞診を行う。

・個人で受けるよりも安い。
・集団検診では、肺・胃・大腸の中から受けた項目を選んで受診できる。

「けんしん」に行こう ～がん検診編～

まさか、私がかんなんて!

(表3) 40歳以上の死因順位(平成18年～22年度)

	40～74歳		75歳以上	
	行田市	県平均	行田市	県平均
第1位	がん 42.8%	がん 45.0%	がん 22.1%	がん 23.8%
第2位	心疾患 (高血圧症除く) 15.4%	心疾患 (高血圧症除く) 14.2%	心疾患 (高血圧症除く) 20.5%	心疾患 (高血圧症除く) 19.2%
第3位	脳血管疾患 9.9%	脳血管疾患 9.5%	肺炎 14.9%	肺炎 14.0%

身近な脅威「がん」
がんなんて「自分には関係ない」と思っています。実は、日本は世界有数の「がん大国」。私たちのおよそ2人に1人ががんになり、3人に1人ががんを命を落とし、2人に1人ががんを亡くしています。65歳以上では、2人に1人ががんを亡くしています。この割合は、世界でもトップクラスです。本市でも、同様にがんが増えていく割合が高くなっています(表3)。40歳から74歳の人ががんを亡くなる割合

は埼玉県内の市町村の平均と比べるとやや低いものの、ほかの死因と比べると群を抜いています。75歳以上の人になると、割合は落ちますが、依然としてその順位はトップです。がんは、私たちにとても身近な病気なのです。安心して毎日を楽しむために、がんを亡くなる方を減らすためには、定期的ながん検診を受けることが非常に有効だと考えられています。医学の進歩により、がんは約50%の方が治るようになりました。特に初期の段階で見し、適切な治療を行うことで、高い確率で治癒するのです。本市では、肺がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮(頸)がんの5つのがん検診に加え、独自に前立腺がん検診を実施しています。「毎年、がん検診を受けていたおかげで、小さながんが見つかり、取り除くことができました」という方を、1人でも多く増やすこと。これが、がん検診の目的です。定期的ながん検診を受け、安心して毎日の生活をしましょう。

早期発見、早期治療が健康のカギです 専門家の声



行田市医師会
根本 和雄 会長
(根本医院院長)

がんへの関心の高まり
以前はがん検診というと、胃や腸などの消化器系が多かったのですが、最近では、肺がんや前立腺がん、乳がん、子宮頸がんなどの検診を受ける方が増えてきました。これは、多種類のがんがあることや、早期治療によりがんが治癒することが分かり、がんに対する関心が高まってきたからだと考えられます。

「大丈夫」の落とし穴
「病気で医療機関に通院しているから大丈夫」と言って、がん検診を受けない方が多いのも事実です。「がん検診」と「診察」はまったく別のもの。たとえ通院していても、体のどこかでがんが発生しているかもしれません。

また、がんは私たち誰もがなりうる病気です。種類によっては進行の早いがんもあるため、「去年のがん検診では異常がなかったから、今年を受診しなくても大丈夫」という考えは禁物です。

定期的ながん検診を
今のところ、がんを完全に予防することはできません。しかし、できる限り早期に発見し、治療を受けることで、がんを克服する可能性が高まります。そのためには、定期的ながん検診を受けることが何よりも大切です。体の調子が悪くなってから病院へ駆け込むのではなく、症状がないときから受診をすることが、大切な命を守ることに繋がります。

明日の健康のためにも、がん検診を受けてください。